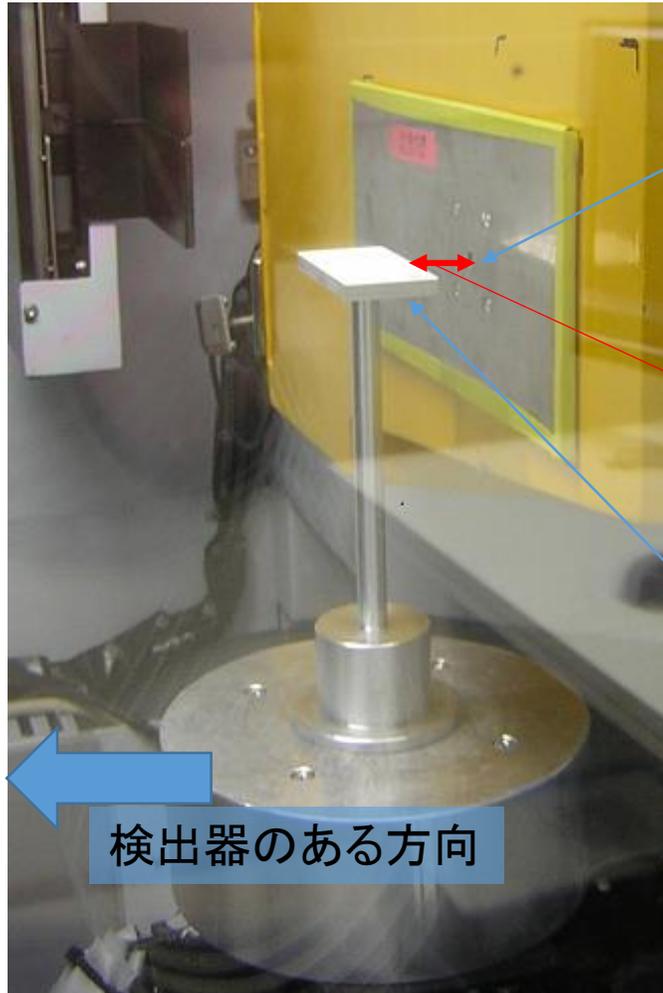
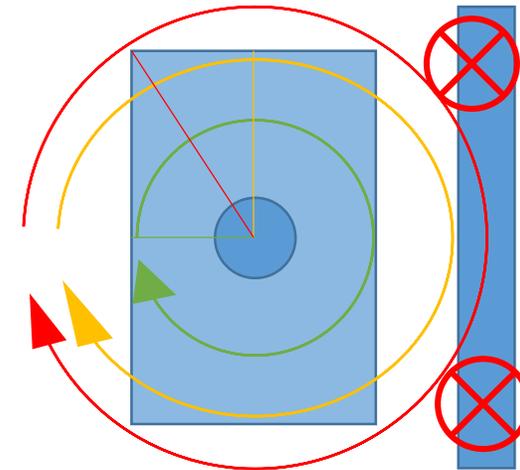


# CT撮影の試料について

CT装置では、サンプルを360°回転させて撮影するため、サンプルの中で**中心から一番遠い距離が「サンプルが光源に近づける限界の距離」**になります。光源とサンプルが近いほど拡大できますので、拡大したい場合はサンプルや回転半径が小さくなるような調整が必要です



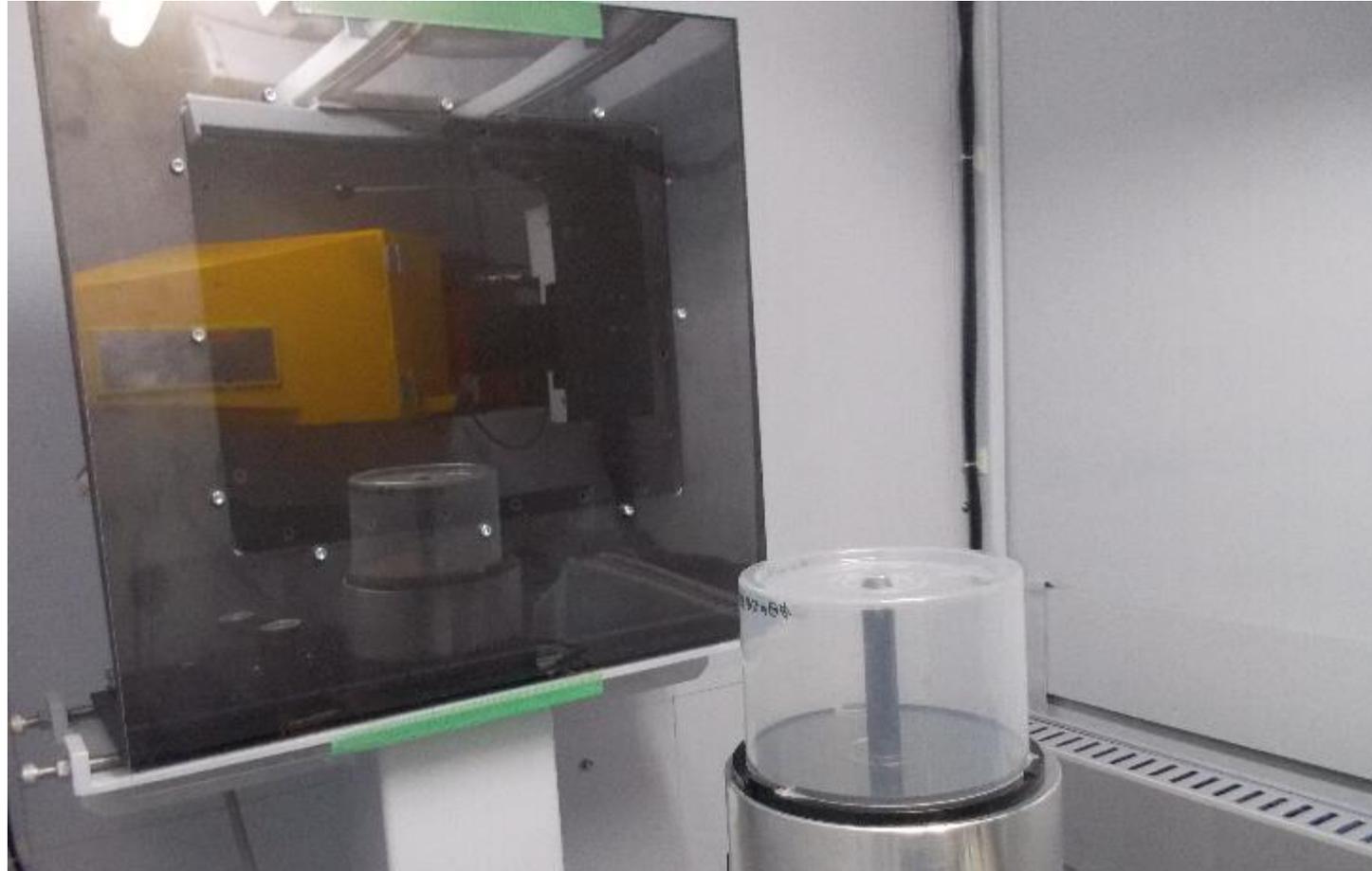
※「サンプルが光源に近づける限界」の考え方



例)  
緑の回転半径=OK  
黄の回転半径=危険  
赤の回転半径=NG  
よって、**撮影不可**

**サンプルサイズにより、光源に近づける限界があるため、実質倍率は30~40倍程度**

# CT撮影の試料について



視野を縦横方向複数回に分けるなどの操作をせず、一回の撮影で全ての試料を撮影できる目安は、市販の**DVD 50枚入りのスピンドル容器程度**です。この場合の拡大率はおおよそ1.4倍程度になります。

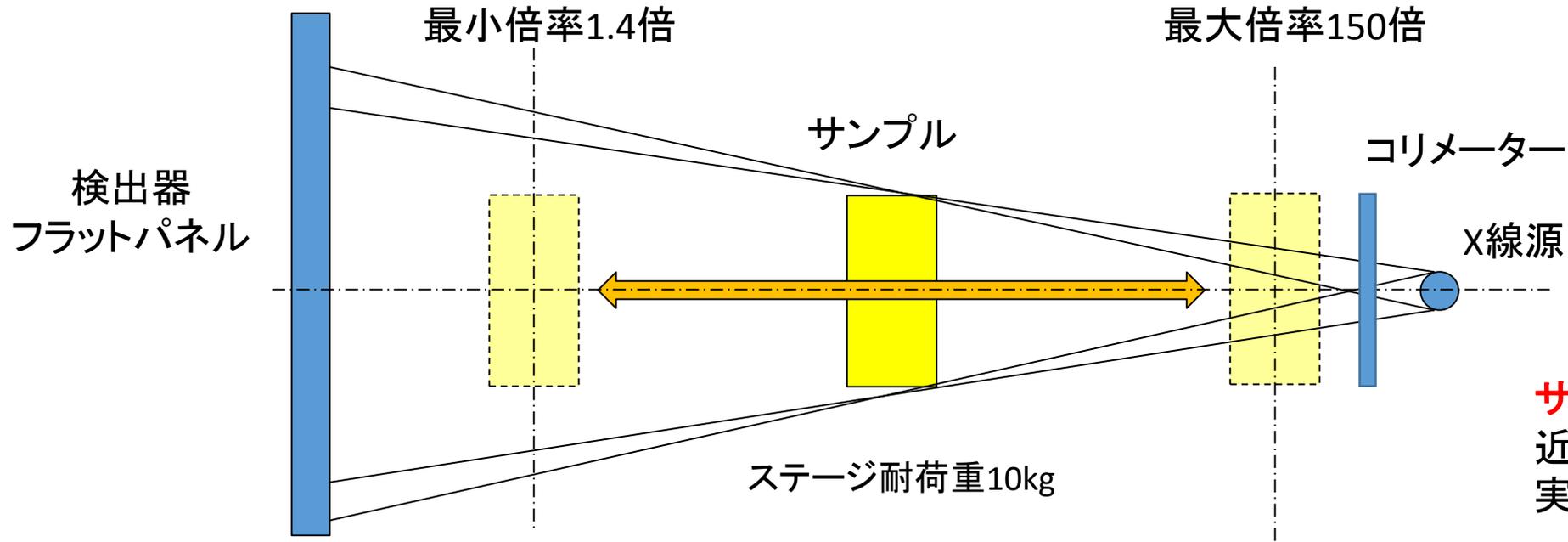
※(上級者向け説明)オフセット撮影を行う場合、横方向は倍になりますが、縦方向は変わりません。

# CT撮影の試料について\_CT装置スペック

コムキャンテクノ(株)  
ScanXmate-D225RSS270



X線管電圧	20~225KV (連続可変)
X線管電流	0~600 $\mu$ A (連続可変)
最大出力	50W
空間分解能	4 $\mu$ m (最大倍率150倍) 92 $\mu$ m (最小倍率1.4倍)
搭載可能検体重量	10kg
X線検出器	270万画素デジタルフラットパネル 有効入力視野 235mm (H) × 186mm (V)



**サンプルサイズにより**, 光源に近づける限界があるため、  
実質30~40倍程度